



**理事長** 市民とプロの両方が関わっておられるんですね。

**片山園長** 9年前に京都大学と学術連携をスタートしました。著名な先生方が気軽に来園されるので、アドバイスをたくさんいただいています。

## 「自然＝自らが然るべき状態である」 ことこそ、「いい環境」

**理事長** 園長は、「いい環境」はどのようなものだとお考えですか。

**片山園長** 「自然であること」ですね。「自然」は、「自らが然るべき状態である」と書くのです。桜は桜らしく、ケヤキはケヤキらしく、動物は動物らしく過ごせる環境こそが快適性が高いといえます。それを大事にすれば、いい環境がつくれると思います。

**理事長** 「あるがままに、自分らしさを大事にして生きる」ということでしょうか。

**片山園長** 奇抜なものを持ち込まない。その気候風土に合った材料を使う。そこに大事なポイントがあると思います。

**理事長** 園内中央の噴水や観覧車は古くからあるそうですね。歴史と新しさを感じました。

**片山園長** 噴水は明治時代からあります。東山の景色と時を刻んだ樹木や噴水などがうまく合わさって、いい環境ができていると思います。また、主役である動物がきちんと身近に感じてもらえる見せ方や、園路をめぐる動線も大事です。然るべき風景のようにさりげなく必要な植物、樹木が配置されているのがいい環境だと思います。

**理事長** 造園技術を専門にしてこられた、片山園長だからこそできることですね。

## 日常にこそ、宝物がある。 それを伝えるのが私の仕事

**理事長** 新しいイベント『園長はんとお散歩』や『プレミアム

フライデー in ZOO ナイトツアー with ビア』は園長のアイデアですか。

**片山園長** 着任してから、獣医師や飼育員が時間をかけて築いてきたものには宝物がいっぱいあると感じました。長く動物園にしていると気付かないこと、日常で流してしまっていることを発信しようと、職員と力を合わせて取り組んでいます。

代表的なものが「大人が楽しめる動物園」です。大人向け企画として『園長はんとお散歩』や、プレミアムフライデーに『夜のガイドツアー』とレストランでの食事をセットにしました。

**理事長** 私たちも日常の仕事の中で、知らず知らずのうちに大切なことが埋もれてしまいます。違う環境から来た人から見れば、いろいろな発見がある。そこに宝物があるというのは、よく分かります。

**片山園長** 私が一番大好きな「動物」は、実は副園長の坂本さんなのです(笑)。獣医師で30年選手、動物に対する愛情の深さ、豊かさに関心しました。動物園で働く人たちにスポットを当てて表に出していくことは、動物園の魅力の一つだと。坂本副園長にもどんどん外に講演活動に行ってもらい、動物や、動物園のことを語ってもらっています。それがすごく評判が良くて。

**理事長** 動物園はさまざまな分野の職員に支えられているんですね。我々も安全安心な商品だけでなく、もう1つ主人公にならないといけないのが「職員」ですよ。

**片山園長** 『園長はんとお散歩』では、職員＝「園人」の魅力を語らせていただいています。職員の動物に対する豊かな愛情のつぶやきをキャッチして、市民の皆さんに伝えようと考えています。

**理事長** 園長は、専門家である「園人」のことや、専門知識について一般市民に分かりやすく、魅力を伝える架け橋なのです。

**片山園長** 私自身、決して専門性が高くないからこそ、伝えるのだと思います。違う分野から来た人間だから、分かりやすく伝えられる(笑)。

## いま、動物園に求められる役割

**理事長** 京都生協は、戦争が終わって約20年ほど経った1964年に、より良い暮らしを求めて設立し、前提として平和であることを大事にしてきました。京都市動物園も戦争を経験されたと思いますが、平和と動物園との関係をどのようにお考えですか。

**片山園長** 第2次世界大戦の折、京都市動物園や他の大都市の動物園において、猛獣や大型動物の殺処分指令が出ました。本当に悲しい出来事でした。裏を返せば、動物園が動物園らしく健全に存在するのは、平和の一番の象徴なのです。

ライオンの「ナイルくん」は老齢で痛々しく見えますが、天寿を全うするまで大事に飼育するのが我々の役割。歳をとったけれども元気になっている、大事に飼育されていることを感じていただきたいです。

**理事長** 園内に動物たちのお墓と「手を合わせる場所」という看板があったので、単純に動物を見るだけの場所ではないのだらうと思いました。

**片山園長** 「動物慰霊祭」を始めたのは、実は京都市動物園が第1号なのです。神社仏閣が多い土地柄、命の尊厳に手を合わせるということが身近なのかも知れません。

**理事長** 私たちが食べるものも命をいただくことなので、感謝することが大事。その気持ちを子どもたちに学んでもらうことも大事なことだと思いました。

では、平和な今日における動物園の役割を聞かせていただきたいです。

**片山園長** 今日動物園の役割は4つあると言われてます。1つは、絶滅の危機に瀕している動物の種の保存、飼育、繁殖をしていくこと。2つ目は、生息地や動物の調査、研究。3つ目は、教育、普及。知ったこと、学んだことを広く市民に知ってもらう。危機に瀕していることも含めてです。4つ目は、レクリエーション。楽しさの中で学んでもらう。『園長はんとお散歩』も小さな教育普及の1つだと思っています。大人の方に動物園のことを学んでもらう。特に調査研究と教育普及は、

公営の動物園の大きな使命だと思います。全国にある約80の動物園のうち、公設公営は半数ぐらいです。中でも、政令市・大都市の歴史ある動物園が日本の動物園をリードしていけたら。学会発表などを積み重ねて「京都市動物園はすごい」と広まることで、信頼が厚くなっていくのです。何かの時に、「京都市動物園だったら貴重な動物であっても譲り渡してもいい」となると思います。

**理事長** 今まで動物園とは子どもが楽しむ場所と思っていましたが、それだけではないんですね。

**片山園長** もちろん子ども向けの学びのメニューもたくさん用意しています。夏休みには「サマースクール」という飼育や動物のことなど楽しく効果的に学べる1日体験のプログラムがあります。動物と触れ合うことの大切さと、小さな感動体験が入口として大事なポイントだと思います。

**理事長** 凶鑑や写真、テレビ、インターネットでも動物はいくらでも見られますが、動物の体温やにおいは直接触れる体験がないと分からないと思います。

京都生協は子育て世代への支援を強める一方で、高齢化でシニア・シルバー世代への対応も求められています。京都市動物園の幅広い世代へのアプローチを紹介していただけますか。

**片山園長** 高齢の方も童心に帰って楽しめると思いますので、例えば同窓会やグループの会合など、動物園を集合場所にして楽しんだ後に食事に行くという使い方ができます。また、いろいろな職場、職域の方に研修を兼ねたレクリエーションという使い方もしていただけます。園内の掃除をしながら、動物園の講演・レクチャーがあるとか。

**理事長** 京都生協の研修なども動物園でできたらいいかもしれませんね。最後に、これからの動物園の構想があればお聞かせください。

**片山園長** 京都市動物園に来たら、動物が、植物や樹木が、訪れた人や職員が生き生きしている。それぞれの命が輝いているような動物園にしていきたいです。「命輝く動物園」、その可能性を持っていると思います。

**理事長** 本日は多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。



片山 博昭 さん  
かたやま ひろあき

第31代目京都市動物園園長  
京都市の造園技術職を専門とし、今までに西京極総合運動公園、梅小路公園、宝が池公園など数々の庭園を手掛ける。日本造園修景協会の京都支部長も兼任しており、各地で講演などを行っている。2017年4月より京都市動物園の園長に就任、新境地で今までの知識・経験を活かしながら、動物園の新たな一面を見せるために奮闘中。



畑 忠男  
はたただお



京都生協理事長 1985年京都生協に入協。  
2015年より理事長に就任。